

一 次の問一～問四に答えなさい。

問一 次の――部の読みをひらがなで答えなさい。

- ①職に就く。 ②恩に報いる。 ③貴重な時間。 ④学校の周りは雑木林だ。 ⑤つねに精進する。

問二 次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きなさい。

- ①父の教えにソムク。 ②ほこりを取りノゾク。 ③ギユウニユウを飲む。
④子どもの頃をカイソウする。 ⑤意見をキョウウユウする。

問三 次の――部の言葉はそれぞれのような働きをしていますか。後から選び、記号で答えなさい。

- ①最初からやる気が出なかった。
②立派な態度だった。
③グラスの割れる音がした。
④わたしは必死で勉強をした。
⑤川には魚がゆらゆらと泳いでいた。

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語

問四 次の①～⑤の語の意味を日本語にするのとどのようになりますか。後に示した漢字を組み合わせ、二字の熟語を作りなさい。ただし、同じ漢字は二度使用できないものとします。

- ①ルール ②データ ③トラブル ④モラル ⑤アマチュア

素・則・報・故・道・情・規・人・事・徳

【二】 三つ葉は、十河五月・綾丸良・村林優・湯河原太一に落語を教える落語家である。湯河原以外の三人は、それぞれに悩みを抱えながらも熱心に落語の練習に励んでいる。一方、三つ葉は自分の落語に行き詰まりを感じている。次は、三つ葉の自宅で行っている落語教室の場面である。よく読んで、後の問に答えなさい。

「三つ葉さん？」

十河に呼ばれて、俺ははっと顔を上げた。彼女は一席しゃべり終わったところで、俺の寸評を待っていた。ぼんやりしていて、よく聞いていなかった。あわてて、適当な批評を始めると、十河はひどくうさんくさそうな顔つきでこちらを見る。文句をつけるかと思ったら、ただ「はい」と言う。言葉だけおとなしい。「はい」という顔じゃない。そもそもこの女は「はい」という女じゃない。「いいえ」の女だ。落語を一つ二つ覚えたところでその鉄壁の「いいえ」が覆るとはとても思えない。相変わらず、そっけない真冬のような冷たい厳しい態度のまま、それでも、まめにやってくるのは、なぜなんだろう。

次の村林がしゃべっている間、俺はずっと考えていた。もう、これは終わりにすべきじゃないのかな。こんなことを続けていて何になる？ 連中のためにも、俺のためにもならない。湯河原が見切りをつけたのがいい証拠じゃないか。曖昧な藁になるのは、もうやめよう。すがられても困る。ちぎれるだけだ。頼りない。すっぱり終わりにして、皆それぞれの問題に一人で正面から取り組んだほうがいい。

しれないと思った。

「落語って面白いか？ 水泳より好きか？」

真剣に尋ねたのに、つまらんこと聞くなあと溜め息をつかれてしまった。

「落語は落語。水泳は水泳」

思いきり馬鹿にしたように答えたあと、ひょいと付け加えた。

「百メートル泳げる小学生は結構いてるけど、落語なんか出来るのは、おらんやろ」

「まあね」

うなずきながら、落語って何かちゃんと知っている小学生がどれだけいるだろうと考えた。

「友達に、落語を習ってるって話するか？」

「するわけないやん」

「なんで？」

「笑われるわ」

「じゃ、自慢にならないだろう」

少しムツとして突っ込んだ。

「どこで威張るんだよ？ 俺は百メートル泳げないけど、落語はしゃべれるってさ」

「ゆうとくけどな、俺、二百メートル、泳げるで。クロールも平泳ぎ

② そんな決心を固めていると、村林が突然しゃべるのをやめた。どうしたんだと尋ねると、

「ぜんぜん聞いてへんやないか！」

怒って赤い顔をしている。

その通りなので、悪かったと謝ると、

「俺、全部、覚えたのに」

目を細めた。

「ゆうべ、家でしゃべってみたら、③ どんどん最後までいくやんか。びっくりしたわ。こら忘れんと思て、今日はスイミング・クラブさぼって、公園の人のおらんとこで練習してきたんや」

「公園？ どの？」

「そんなん、どうでもええやん」

村林は口を尖らせて、ぷんと横を向いた。機嫌をそこねたヒナ鳥みたいに見えた。いつもより少しかわいく見えた。

「へえ。覚えたのか。そうか」

さつき、井の頭公園で見かけた子供は、やっぱり村林だったのかも

もいけるで」

「そりゃ悪かったな」

「悪いわ」

「家で威張るのか。お母さんの前でしゃべって聞いてもらうんだな」

「聞かへんがな」

妙に大人びた冷めた目になった。

「落語をやれ、ゆうたんはお母さんやけど、ほんまは東京の言葉を覚えてほしかったみたいやな。ぜんぜん聞いてくれへんわ」

ドキリとした。学校で、関西弁を笑われていじめられているのだろうか。聞いてみようとするど、

「俺、ウンコする時、落語の練習するんや。お母さん、めっちゃ怒りよるで。トイレから変な声が聞こえる、気味悪いイテ」

ニタリと笑いやがった。

「だいたい落語やると、勉強せい、ゆうもんな。俺、思いきりやかましく、しゃべったるねん。お母さんがテレビ見てる隣でやったるねん」

「迷惑な奴だな」

「戦いや」

「戦いばかりだな」

負けず嫌いの反骨精神もいいが、疲れやしないかと少し心配になった。

「そやけど、俺、落語、好きなんちがうかな？」

自分に問いかけるように首をひねった。

「ちゃんと覚えたもんな。嫌味でやるには長すぎる思わんか？」

「思うわね」

突然、十河が返事したので、皆、びっくりした。落語以外では口を開かないダンマリ猫が何を思ったか、

「本当に覚えたんなら、やってみてよ」

と挑戦的な口調で言うので、

「ええよ」

村林は目を丸くしてうなずいた。

ひよつとして、この二人にはライバル意識などというものがあるの
だろう。十河の顔つきは真剣だし、村林は得意そうだし、どうも、
④ そうらしいと妙な気分になってくる。

「ああ、惜しいなあ」

急に村林は舌打ちした。

「湯河原のオヤジ、肝心な時に、いてへん」

「あの人さア。どうしたんだらうねー」

誰かが湯河原の名前を持ち出すのを待っていたかのように、良が
言った。

すると、皆、良に視線を集めて沈黙した。

「どうしたんだらうねー」といっしょに声を合わせて繰り返すような
沈黙だった。

俺もちょうど湯河原のことを思い出していた。湯河原がいたら、ま
た、生意気な小僧だと村林と喧嘩するだらうかと考えていた。

決して仲良しの集まりではない。喧嘩の火種があちこちでブスブス
くすぶっているような物騒な関係である。それでも、やはり、一人の
不在が気になる。いないよりは、いたほうがいい。もし、落語教室を
やめると言ったら、村林は、十河は、良は、がっかりするだらうか。
淋しいだらうか。

三人の顔をそれぞれゆつくりと眺めた。

村林は落語を好きだと言ってくれた。

俺が頼んだわけじゃないし、期待したわけでもないが、えらく長い
⑤ 嘶を覚えた。村林だけじゃない。十河は村林の半分の長さだが、とっ
くに嘶は覚え、仕草も板についてきた。良もだいぶつかえずにしゃべ
れるようになっていく。彼らの人生の問題はともかく、落語は確実に
目に見えて上達している。そして、そのことを彼らは喜んでいく。俺
が思っていたより、ずっとずっと喜んでいく。

「よし。聞いてやるぜ」

俺が村林をうながすと、

「なんや。えらそうやんか」

村林がしゃべるのを見ていると、俺はなんとも幸せな気分になって
きた。⑦

ほかの聞き手も同じ気持ちらしく、十河が珍しく柔らかい眼差しで、
良が心配事などないような明るい眼差しで、村林の一举一動をじっと
見守っていた。

⑧ この六畳の古びた茶の間は、のどかな幸福の空間だった。良い笑い
があった。自然な人の和があった。現在にも未来にも、暖かい光が満
ちているように思えた。

(佐藤多佳子『しゃべれども しゃべれども』より)

問一——部①「そっけない真冬のような冷たい厳しい態度」とありますが、十河の普段の様子を表現している部分を、——部①の段落以外の
部分から十七字でぬき出し、最初と最後のそれぞれ五字を答えなさい。

問二——部②「そんな決心」とは、どのような決心ですか。次の空らん(a・b)に合うように、本文の中から指定の字数の語句を二か所ぬ
き出して答えなさい。

落語教室で話し方を教えていても (a 十五字以内) ならないため、落語教室は (b 十字以内) にしようという決心。

問三 本文中の空らんには当てはまる言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いたずらっぽく イ うらめしそうに ウ まぶしそうに エ うれしそうに

問四 ― 部③「どんどん最後までいくやんか。びっくりしたわ」とありますが、ここには村林のどのような様子が表れていますか。次のことから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつのまにか落語が上達していたことを不審に思う様子。
イ やつとの思いで落語を覚えはしたが少し疲れている様子。
ウ いつのまにか落語が上達していたことにわくわくする様子。
エ どんな長い落語でも覚えられる才能に自信を持っている様子。

問五 ― 部④「妙な気分」とありますが、そのような気分になったのはなぜですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 村林と十河というまったくタイプの違う二人が互いを意識しながら、ともに落語に夢中になっているから。
イ 村林と十河というもともと仲の悪い二人が、ライバル意識をもって互いを嫌いながらも練習に励んでいるから。
ウ 落語には、人を笑わせることで互いの心を和ませ、仲をよくする効能もあるのだと改めて気づいたから。
エ 村林と十河のおかげで、自分に足りないものに気づき、生徒に教えてもらえることもあるのだと分かったから。

問六 ― 部⑤「肝心な時」とは、どのような時ですか。次の文の空らんには当てはまる言葉を指定の字数で考えて補い、説明を完成させなさい。
村林が、(a 十字程度) に対して、(b 十字程度) 時。

問七 ― 部⑥「坊主は鼻をふーと鳴らしてから、もったいぶって、しゃべりはじめた」とありますが、ここには村林のどのような様子が表現されていますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三つ葉から、えらそうに^{はなし}噺をするようにうながされたことを不満に思う一方で、練習した噺をしゃべれることを得意に思う様子。
イ 村林が何度も練習して噺を覚えたことを自慢に思い、^{みんな}皆の前でしゃべれることをとてもうれしく、^{ほこ}誇らしげに感じている様子。

ウ 一度目にしゃべった時にはぜんぜん話を聞いていなかった三つ葉が、「聞いてやるぜ」とえらそうに言ったことに怒りを覚えている様子。
エ 三つ葉がいかに落語の師匠^{ししょう}のような態度を取ることに違和感を感じながら、初めて人前で落語をしゃべるために緊張^{きんちよう}している様子。

問八 ― 部⑦「俺はなんとも幸せな気分になってきた」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 村林の落語が想像以上に上達していたため、教えた甲斐^{かい}があったと思ったから。
イ 村林がしゃべる落語の内容が、悩みを抱える人たちに元気を与えるものだったから。
ウ たくさん練習をしたという村林の落語は、プロから見ると未熟な点が多かったから。
エ 村林がしゃべる落語は、下手ではあるが表情もしぐさとても嬉しそうだったから。

問九 ― 部⑧「この六畳の古びた茶の間は、のどかな幸福の空間だった」とありますが、どういうことですか。次の文の空らんには当てはまる言葉を本文中からぬき出し、説明を完成させなさい。

- 十河や良は村林の練習の成果を間近でみているうちに、柔らかく明るい (a) になり、三つ葉は落語教室の今にもこれからにも (b) ように思えたということ。

問十 次の選択肢について、本文の内容と合っているものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 三つ葉は落語教室のまとめ役として、悩みを抱えている人たちに、落語を通して自信を取り戻^{もど}すきっかけを与えたいと考えている。
イ 村林が東京の言葉を使った落語を覚えたのは、自分の落語が上達したことを母親に認めてほしいと思ったためである。
ウ 落語教室のメンバーは喧嘩^{けんか}することも珍^{めづ}しくないが、湯河原が来なくなったことを心配し、いないよりはいたほうがいいと思っている。
エ 村林が、覚えた落語を忘れないように公園で練習していたところを三つ葉は見かけていて、村林の練習熱心に心を打たれた。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人は自己主張が苦手だと言われる。グローバル化の時代だし、もっと自己主張ができるようにならないといけないなどと言う人もいる。でも、日本人が自己主張が苦手なものには理由がある。そして、それはけっして悪いことではない。

では、アメリカ人は堂々と自己主張ができるのに、僕たち日本人はなぜうまく自己主張ができないのか。

それは、^①そもそも日本人とアメリカ人では自己のあり方が違っている。コミュニケーションの法則がまったく違っているからだ。

アメリカ人にとって、コミュニケーションの最も重要な法則は、相手を説得し、自分の意見を通すことだ。お互いにそういうつもりでコミュニケーションをするため、遠慮のない自己主張がぶつかり合う。お互いの意見がぶつかり合うのは日常茶飯事なため、まったく気にならない。

一方、日本人にとって、コミュニケーションの最も重要な役割は何だろう。相手を説得して自分の意見を通すことだろうか。そうではないだろう。僕たちは、自分の意見を通そうというより前に、相手はどうしたいんだろう、どんな考えなんだろうと、相手の意向を気にする。そして、できることなら相手の期待を裏切らないような方向に話をま

のためでもあるのだが、自分だけのためではない。

このような人の意向や期待を気にする日本的な心のあり方は、「他人の意向を気にするなんて自主性がない」とか「自分がない」などと批判されることがある。でも、それは欧米的な価値観に染まった見方に過ぎない。

教育心理学者の東洋は、日本人の他者志向を未熟とみなすのは欧米流であって、他者との絆を強化し、他者との絆を自分の中に取り込んでいくのも、ひとつの発達の方向性とみなすべきではないかという。

^⑤そもそも欧米人と日本人では自己のあり方が違う。僕たち日本人が、率直な自己主張をぶつけ合って議論するよりも、だれも傷つけないように気をつかい、気まずくならないように配慮するのも、欧米人のように個を生きているのではなくて、関係性を生きているからだ。

心理学者のマーカスと北山忍は、^⑥アメリカ的な独立的自己観と日本的な相互協調的自己観を対比させている。

独立的自己観では、個人の自己は他者や状況といった社会的文脈から切り離され、そうしたものの影響を受けない独自な存在とみなされる。そのため個人の行動は本人自身の意向によって決まると考える。

それに対して、相互協調的自己観では、個人の自己は他者や状況といった社会的文脈と強く結びついており、そうしたものの影響を強く受けるとみなされる。そのため個人の行動は他者との関係性や周囲の

とめたいと思う。意見が対立するようなことはできるだけ避けたい。そうでないと気まずい。

つまり、僕たち日本人にとっては、コミュニケーションの最も重要な役割は、お互いの気持ちを結びつけ、良好な場の雰囲気を出すことなのだ。強烈な自己主張によって相手を説き伏せることではない。

だから自己主張のスキルを磨かずに育つことになる。自己主張が苦手なのは当然なのだ。その代わりに相手の気持ちを察する共感性を磨いて育つため、相手の意向や気持ちを汲み取ることができる。

相手の意向を汲み取って動くというのは、僕たち日本人の行動原理といってもいい。コミュニケーションの場面だけではない。たとえば、何かを頑張るとき、ひたすら自分のためというのが欧米式だとすると、僕たち日本人は、だれかのためという思いがわりと大きい。

^②親を喜ばせるため、あるいは親を悲しませないために勉強を頑張る、ピアノを頑張る。先生の期待を裏切らないためにきちんと役割を果たす。そんなところが多分にある。大人だって、監督のために何としても優勝したいなんて言ったりするし、優勝すると監督の期待に応えることができる。それができてホッとしていると言ったりする。

^③自分の中に息づいているだれかのために頑張るのだ。もちろん自分

状況に大いに左右されると考える。

このような相互協調的自己観をもつ僕たち日本人は、個としての自己を生きているのではなく、関係性としての自己を生きている。関係性としての自己は、相手との関係にに応じてさまざまな姿を変える。その場その場の関係性にふさわしい自分になる。相手との関係性によって言葉づかいまで違ってくる。欧米人のように相手との関係性に影響を受けない一定不変の自己などというものはない。

「だれが何と言おうと、私はこう考える」「僕はこう思う」と自分を押し出していく欧米社会では視線恐怖があまり見られないのに対して、自分を押し出すよりも相手の意向を汲み取ろうとする日本人の間には視線恐怖が多い。それは、僕たち日本人は、相手との関係性によって自分の出方を変えなければならないからだ。

相手がどう思っているかが気になる。こんなことを言ったら相手はどう感じるだろうか気になる。それも、僕たちが関係性としての自己を生きているからだ。

僕たちの自己は、相手から独立したものではなく、相手との相互依存に基づくものであり、^⑦間柄によって形を変える。僕たちの自己は、相手にとっての「あなた」の要素を取り込む必要がある。だから相手の意向が気になる。相手の視線が気になるのだ。

個を生きているのなら、自分の心の中をじっくり振り返り、自分の

したいことをすばいし、自分の言いたいことを言えばいい。相手が何を思い、何を感じているかは関係ない。自分が何を思い、何を感じているかが問題なのだ。自分の思うことを言う。自分が正しいと考えることを主張する。自分の要求をハッキリと伝える。それでいいわけだ、じつにシンプルだ。

でも、関係性を生きるとなると、そんなふうにシンプルにはいかない。自分の意見を言う前に相手の意向をつかむ必要がある。気まずく

ならないようにすることが何よりも重要なので、遠慮のない自己主張は禁物だ。相手の意見や要求を汲み取り、それを自分の意見や要求に取り込みつつ、こちらの意向を主張しなければならない。このように関係性としての自己を生きる僕たち日本人は、たえず人の目を意識することになる。

(榎本博明「『自分らしさ』って何だろう?」より)

問一 ――部①「そもそも日本人とアメリカ人では自己のあり方が違っていて、コミュニケーションの法則がまったく違っている」とありますが、日本人とアメリカ人にとって、コミュニケーションで最も重要と考えられているのはどのようなことですか。それが書いてある部分を日本人は二十八字で、アメリカ人は二十一字で探し、最初と最後の五字をぬき出しなさい。

問二 ――部②「親を喜ばせるため、」と言ったりする」とありますが、何を強調するための具体例ですか。二十五字以内で答えなさい。

問三 ――部③「自分の中に息づいているだれかのために頑張る」とありますが、日本人がだれかのために頑張るようになったのはなぜですか。次の説明文の空らん a・b に、本文中の五字以内の言葉を入れて答えなさい。

日本人は、(a) のスキルを磨かずに、(b) を磨いて育ってきたから。

問四 ――部④「日本人の他者志向」を言いかえている部分を探し、二十一字でぬき出しなさい。

問五 ――部⑤「そもそも欧米人と日本人では自己のあり方が違う」とありますが、どのように違うのですか。次の説明文の空らん a・c には三字以内、b・d には十六字以内の本文中の言葉を入れて答えなさい。

日本人は (a) を生きているから (b) する。

欧米人は (c) を生きているから (d) する。

問六 ――部⑥「アメリカ的な独立的自己観と日本的な相互協調的自己観」を正しく説明しているものを選びなさい。

ア 日本人は独立的自己観を持っているので、個人の自己は他者や状況といった社会的影響を強く受ける。

イ 相互協調的自己観を持つ日本人は自己意識が高く、個人の行動は本人自身の意向によって決まる。

ウ 相手との関係性に影響を受けない独立的自己観は、他者や状況といった社会的文脈から切り離されている。

エ アメリカ的相互協調的自己観は関係性としての自己を生きており、相手との関係にに応じて姿を変える。

問七 ――部⑦「間柄によって形を変える」とありますが、日本人はどのような行動をとりますか。……部 a・d から正しいものを選びなさい。

問八 日本人が主張するときにつけることは、どのようなことですか。最も筆者の意見がまとめて書かれている一文を探し、最初の五字をぬき出しなさい。

※問題作成の都合上、本文の一部を省略・変更しました。

